

## 平成23年度私立学校初任者研修 小学校（西日本地区）研修会実施報告

本年度の私立学校初任者研修 小学校（西日本地区）研修会が、8月1日（月）から3日（水）までの3日間、大阪ガーデンパレスで開催され、49名の小学校教員が受講した。

まず初めに前大阪聖母学院小学校校長の赤野孝一氏による講演「私学の一員として期待すること」からこの研修は始まった。小学校から私学に子どもを託す親は、私学教員への期待が大きい。その責任を受講生に訴えかける講演であった。



次に、元RKB毎日放送アナウンサー永田啓子氏の講演「朗読・よみきかせ わくわく講座」が行われ、発声のしかたや情景を表現することを学んだ。小学校の授業では、教師は表現者としての能力も必要とされる。その事の重要性を感じて、受講者たちは、意欲的に課題に取り組んでいた。

研修2日目。はじめに帝塚山学院小学校教諭で臨床心理士の河合篤史氏による「教室で生かすカウンセリングマインド 2011」という講演が行われた。子どもとの心理的な距離の取り方や児童と接する際に注意すべきことなど、実践的な研修であった。

その後は、(財)日本私学教育研究所の大森隆實 専任研究員による講演「私学の現状と展望」へと続いた。今、私学が置かれている状況や子ども達の実状を、さまざまな例を取り上げて解説した。

午後からは暁小学校校長 水谷浩三氏の講演へと続いた。演題は「ICT活用で子どもが主役になる授業をデザインしよう！」で、授業の進め方や教科の指導における注意すべき点などを、語っていただいた。



次に行われたのは、体を動かす実習である。「楽しい体育指導」と題した帝塚山小学校教諭の野村至弘氏の実技指導では、受講者たちは生き生きとして表情で、なおかつ真剣な眼差しで体育実技に取り組んでいた。

夜間に入っても研修は続く。2日目の夕食後は「グループ討議」があり、低学年・中学年・高学年・専科と4つのグループに分かれての討議がなされ、夜遅い時間まで、熱心に話し合いが続いていた。

研修3日目の最終日。研修の掉尾を飾る講演は、日本教育総合研究所代表取締役、大谷武彦氏の「新学習指導要領とPISA型学力」であった。小学生の「学力低下」がマスコミを賑わして久しい。一方で「学力とは何か」という議論も尽きることはない。これからの教育のあり方を考える重要な講演であった。

最後に全体会では、前夜の分科会の報告を行い、3日間の研修を締めくくった。